



2013/2/14

TWS hongo TWS aoyama creator in residence

# TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL

SOUND, ART PERFORMANCE Vol.7

トーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバル Vol.7

2013/2/27 水 - 2013/3/30 土

トーキョーワンダーサイト本郷、トーキョーワンダーサイト青山：クリエイター・イン・レジデンス、東京ウィメンズプラザホール

## プログラム

### トーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバル (TEF) 受賞記念プログラム

6 ~ 7

会期：2013年2月27日(水)～3月1日(金)

会場：トーキョーワンダーサイト本郷

出演：ペーパーアンサンブル、河合政之 with 浜崎亮太、Depuis1975-日原史絵+山本和智、佐藤淳一、吉濱 翔

### インターナショナル・アンサンブル・モデルン&トーキョーワンダーサイト アカデミー Vol.6

3 ~ 5

会期：2013年3月24日(日)～3月30日(土)

会場：トーキョーワンダーサイト青山：クリエイター・イン・レジデンス、東京ウィメンズプラザホール

講師：アンサンブル・モデルン (デイトマー・ウィズナー、ウエリ・ヴィゲット、オガワ・ルミ、ミハエル・カスパー)、一柳 慧  
ジュンホ・チョン、キョンウォン・ムン、ダニー・ユン、上田閑照 (特別講師)、岡村美穂子 (特別講師)

### クロージング・コンサート／ミュージック・シアター・トライアウト

5

会期：2013年3月30日(土)

会場：東京ウィメンズプラザホール

Internationale  
Ensemble  
Modern  
Akademie

※プログラム・会場はやむをえず変更となる場合がございます。予めご了承ください。

取材・掲載の際は、事前に広報担当までご連絡をお願いします

担当：浅野・千賀

TEL:03-5766-3732 / E-MAIL: press@tokyo-ws.org



## ブラック・マウンテン・カレッジ、草月アートセンターからトーキョーワンダーサイトへ

ブラック・マウンテン・カレッジでジョン・ケージは、今日では伝説的な存在となった、様々な分野のクリエイターと生活を共にしながら実験的な創造活動を行い、大戦後の新しい自由な地平を開きました。NYでケージと活動を共にした一柳慧は、帰国後、多くの日本のアヴァンギャルドたちと共に、草月アートセンターから新しい芸術表現を発信しました。そして今、トーキョーワンダーサイトは、レジデンスで生活を共にする様々な国のクリエイターと協働し、大きな転換点を迎えた21世紀の新たな地平に向けて、創造的実験を行っていきます。

## 企画概要

日々新しい文化が生まれ、交錯する都市・トーキョー。誰も体験したことのない実験的な公演を一举に上演するサウンド・フェスティバルに、新しい表現を模索する次世代のアーティストが集います。今回は、前回上演された公募プログラムの中から選りすぐりの5作品を再演。また、世界最高峰の現代音楽グループ、アンサンブル・モデルンとともに過ごすアカデミーでは、「ジョン・ケージ×鈴木大拙×一柳慧」をテーマに、レクチャー、レッスン、ワークショップ、ミュージック・シアター制作等、多様なプログラムを展開。最後はモデルン・メンバーと若手演奏家によるコンサートで締めくくられます。

- 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト
- 協力：インターナショナル・アンサンブル・モデルン・アカデミー
- 後援：オランダ王国大使館、東京ドイツ文化センター、フィンランド・センター、日本・フィンランド新音楽協会
- トーキョーワンダーサイト・ミュージックプログラム・スーパーバイザー：一柳 慧（作曲家・ピアニスト）

## 会場案内 ※各会場に駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮下さい。

### A：トーキョーワンダーサイト本郷

〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-16

TEL: 03-5689-5331 / FAX: 03-5689-7501

■交通案内：御茶ノ水駅（JR総武線、東京メトロ丸の内線）、水道橋駅（JR総武線、都営地下鉄三田線）、本郷三丁目駅（東京メトロ丸の内線、都営地下鉄大江戸線）各駅より徒歩7分

### B：トーキョーワンダーサイト青山：クリエイター・イン・レジデンス

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山SOUTH棟3F

TEL: 03-5766-3732 / FAX: 03-5766-3742

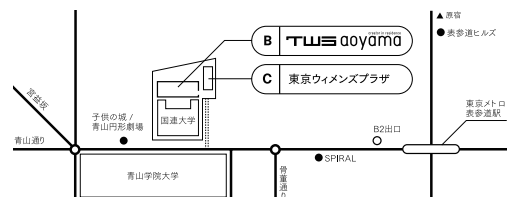
■交通案内：表参道駅（東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線）B2出口より徒歩7分、渋谷駅（JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン / 東急東横線・田園都市線 / 京王井の頭線 / 東京メトロ銀座線・半蔵門線・副都心線）より徒歩8分

### C：東京ウィメンズプラザホール

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67

■交通案内：表参道駅（東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線）B2出口より徒歩7分、

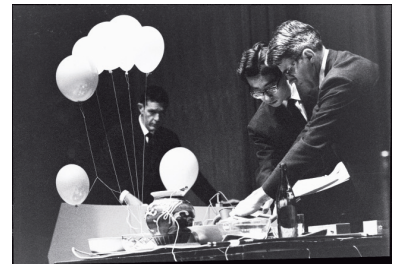
渋谷駅（JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン / 東急東横線・田園都市線 / 京王井の頭線 / 東京メトロ銀座線・半蔵門線・副都心線）より徒歩8分



## インターナショナル・アンサンブル・モデルン&トーキョーワンダーサイト アカデミー Vol.6

### ポスト3.11における《ジョン・ケージ×鈴木大拙×柳慧》

第二次大戦後、アメリカのアートはそれまでの伝統を壊し、新しい探求と創造への試みが行われました。その流れの中でジョン・ケージが鈴木大拙が説く禅に出会い、音楽の地平を解放したことは、様々な芸術の分野に影響を及ぼしただけでなく、生き方そのものの大転換でもありました。一方、鈴木大拙は、東洋的見方の源「禅」が、新しい世界的文化の中で一つの役割を担い、人間存在のより深い試みとなるよう、世界に広く説きました。そしてNYでケージと活動をともにした柳慧は、帰国後実験的な前衛活動を次々に繰り広げると同時に、日本古来の文化と伝統的な時空間から新しい表現を生み出しました。世界的経済危機、ジャスミン革命、3.11と、世界が大きな価値の転換を要する今、アカデミーでは、この3人に焦点を当てます。2013年、ジョン・ケージ生誕100+1年という年に、TWSは柳、モデルン、若手アーティストとともに、更なる一歩を踏み出し、新しい地平を拓きます。



ジョン・ケージ初来日時の公演より(1961年、草月会館)  
(左より)ジョン・ケージ、柳慧、ディヴィッド・チュドア

### 「東洋的なもの—ケージの音楽」—柳慧

日本におけるジョン・ケージの理解の仕方、演奏の仕方というのは、ヨーロッパ的で技術的なものに傾いているような印象を受ける。東洋的なもの、「禅」や「仏教」といった要素が欠けたケージ観が出回り、「チャンス・オペレーション」、「不確定性」、「易の音楽」といっても、多くの場合、非常に技術的な扱い方に終始している。しかし、それではケージの本質に迫るには足りないだろう。実際のケージは、最先端のものに興味を持った一方、その佇まいや振る舞い、その存在自体が非常に穏やかで、袈裟でも着ていたならそのままお坊さんになってしまうような人だった。ケージが大拙から受けとめた東洋的なもの—それは、いびつに欧米化した日本においては抜け落ちてしまったものだが—そして、ケージの切り開いた地平は、今この転換期に立つ私たちに何を問いかけるだろうか。



ケージとともに(1981年、軽井沢・高輪美術館)  
提供：松本徳彦氏

## アカデミー概要

現代の音楽創造の最前線に立ち続けるアンサンブル・モデルン(EM)とトーキョーワンダーサイトの協働プロジェクト。このアカデミーは、EMが結成以来培ってきた経験を次世代の音楽家に伝える教育の場であるだけでなく、名だたるアーティストと数々のコラボレーションを行ってきたEMとともに、TWSが現代の音空間の創出に取り組む実験的な場でもあります。また、今回よりアジアを代表するクリエイターを講師に迎え、ヴィジュアルアート、パフォーマンスアートのコースを新設します。本アカデミーはマルチメディアなアカデミーとして、ジャンルを超えたアーティストたちが全員でテーマを掘り下げ、創造のプロセスを重ねることで、新しい表現を生み出すことを目指します。

■ 開講コース	[演奏コース] アカデミーのテーマに沿った課題曲を、アンサンブル・モデルンのメンバーが直接指導します。
	[作曲コース] 講師や他の受講者に対して自作品についてのプレゼンテーションを行い、ディスカッションを進めながらアドバイスを受けます。
	[ヴィジュアルアート・コース/パフォーマンスアート・コース] メンタリング(講師との個別面談)を通してポートフォリオや作品プランについてのアドバイスを受けます。
■ 共通プログラム	[レクチャー・プログラム] 「鈴木大拙」や禅について特別講師を迎えてのレクチャーを実施するほか、アンサンブル・モデルンの協働プロジェクトや教育プログラムなど、アカデミー講師陣による多彩なトーク、シンポジウム等を開催します。
	[ワークショップ] 講師や受講生と一緒に参加するワークショップです。他の参加者と積極的にコミュニケーションを取りながら、幅広い表現に柔軟な姿勢で取り組みます。
■ 日程	2013年3月24日(日)~3月30日(土)
■ 会場	トーキョーワンダーサイト青山:クリエイター・イン・レジデンス、東京ウィメンズプラザホール

## 講師紹介

アンサンブル・モデルンからは教育プログラムの経験も豊富な4名が参加、TWSミュージックプログラム・スーパーバイザーも務める一柳慧、無形文化遺産・昆劇への造詣が深く、香港の文化行政の中心的人物でもある演出家・ダニー・ユン、ドクメンタ13や光州ビエンナーレへの参加、Korea Artist Prizeの受賞が記憶に新しいジュンホ・チョン、キョンウォン・ムンといった、マルチメディアなアカデミーにふさわしい講師陣を迎えます。また、特別講師として哲学者・京都大学名誉教授の上田閑照、晩年の大拙を秘書として支えた岡村美穂子の各氏を迎えてのレクチャー・プログラムを開講します。

### 演奏 / 作曲コース

#### インターナショナル・アンサンブル・モデルン・アカデミー (IEMA) The International Ensemble Modern Academy (IEMA)

世界最高峰の現代音楽グループ、アンサンブル・モデルンによって2003年フランクフルトに設立。若手アーティストが経験豊富なアーティスト、専門家と対話や議論をし、ともに実験を行うことを目的としている。参加者は多様なマスター・クラスや教育プログラムを通じて、アンサンブル・モデルンのメンバーから作品解釈や批評、演奏技術などを学んでいる。

デイトマー・ウィズナー (フルート奏者)  
ウエリ・ヴィゲット (ピアニスト)  
オガワ・ルミ (打楽器奏者)  
ミハエル・カスパー (チェリスト)

#### 一柳 慧 (作曲家 / ピアニスト) Toshi Ichiyanagi (Composer / Pianist)

作曲を平尾貴四男、ジョン・ケージ、ピアノを原智恵子、ヴィヴェレッジ・ウェブスターらに師事。50年代後半からニューヨークを中心にケージ、デヴィッド・テュードアラと実験的音楽活動を展開。帰国後は偶然性や図形楽譜を用いた作品と、欧米の新しい音楽の紹介と演奏によって、様々な分野に強い刺激を与える。これまでに尾高賞を4回、フランス文化勲章 (1985)、毎日芸術賞 (1989)、京都音楽大賞 (1989)、紫綬褒章 (1999)、サントリー音楽賞 (2002)、旭日小綬章 (2005) など受賞多数。作品はオペラ、交響曲、協奏曲、電子コンピューター音楽、雅楽、聲明など多岐にわたり、世界各地のフェスティバルからの委嘱や招聘も多数。現在、神奈川芸術文化財団芸術総監督、TWSミュージックプログラム・スーパーバイザーなどを務める。2008年、文化功労者。

### ビジュアルアート・コース

#### ジュンホ・チョン (ビジュアルアート、韓国) Joonho Jeon (Visual Artist, Korea)

東義大学校 (釜山) ファイン・アート学士課程、チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン (ロンドン) 修士課程修了。映像、彫刻などを用いて韓国の社会政治的イメージを表現する。

#### キョンウォン・ムン (ビジュアル / メディアアート、韓国) Kyungwon Moon (Visual / Media Artist, Korea)

California Institute of the Arts (アメリカ) にて芸術学修士号、延世大学 (ソウル) にて博士号取得。梨花女子大学教授。内省的意識と現実、個々の関係性、アーティストと社会の関係をテーマに制作を行う。

ジュンホ・チョンとキョンウォン・ムンは2010年より共同制作を行い、リュブリャナ国際版画ビエンナーレ (2010)、モスクワ・ビエンナーレ (2010) など作品を発表。同年、プロジェクト「News from Nowhere」を立ち上げ、一柳慧、伊東豊雄、Takramデザインチームなどとアートの社会的機能と役割を考察し、ドクメンタ13 (カッセル、2012)、光州ビエンナーレ (韓国、2012) に参加。Korea Artist Prizeを受賞。



El Fin Del Mundo, 2012, HD Film, Installation view at documenta-Halle dOCUMENTA(13)

### パフォーマンスアート・コース

#### ダニー・ユン (演出家 / 香港現代文化研究所代表 / アート集団ズニ・イコサヘドロン創設者、香港) Danny Yung (Director / Chairperson of the HKICC and founder of the art group / Zuni Icosahedron, Hong Kong)

上海生まれ。1982年アート集団ズニ・イコサヘドロンを設立、ズニの演劇作品はアジア、ヨーロッパの多くの都市で上演されている。新しい芸術の形を提唱し、各地で実験的な映画やビデオ、インスタレーションなどの作品を発表しているほか、コミック「天天向上」の作者としても知られている。近年は香港政府の政策アドバイザーとして、重要な文化政策に関わるとともに、ユネスコと共同で無形文化遺産センターを始め、新しい創造教育を目指すHKICCスクールを創立。

### レクチャー特別講師

#### 上田閑照 (哲学者 / 日本学士院会員 / 京都大学名誉教授) Shizuteru Ueda (Philosopher / Member of the Japan Academy / Professor emeritus at Kyoto University)

1926年東京生まれ。京都大学、同大学院で宗教哲学を学び、西ドイツ、マールブルグ大学に留学。1972～1989年京都大学教授。東西の思想・宗教の出会いを実存と思索の場所とする宗教哲学が生涯の課題となり、西田幾多郎、鈴木大拙、西谷啓治を導きとしてこの道を歩む。京都学派の重鎮。

「火に入っても焼けず、水に入っても溺れず」とは実際どういうことなのでしょうかと (大拙先生に) 聞きましたら、間をおかず「それは焼けてしまうということだ、溺れてしまうということだ」とそれだけばって仰って、それで私も、ばって曖昧な体が引き裂かれたような感じを受けました。

#### 岡村美穂子 (鈴木大拙館名誉館長 / 日本民藝館評議員) Mihoko Okamura (Honor Director of D.T. Suzuki Museum / Councilor of the Japan Folk Crafts Museum)

ロサンゼルス生まれ。1951年に鈴木大拙と出会い、1966年の逝去まで15年間、同氏に師事し、秘書として務める。1969～1998年『ザ・イースタン・ブディスト』編集委員。1992～2006年大谷大学非常勤講師。

大拙先生は universe という言葉、cosmos という言葉を使っていたが、「そのまま」ということを言うために、「枠がない」と言わざるを得ませんでした。ケージさんの音楽は本当に、音の上で枠を超えていて、大拙先生も音楽とかそういうことを忘れて、ご自分の境遇をそのまま、ケージさんにお伝えしておられていたことを記憶しています。

## 特別プログラム

### リヴェレーション2011 —— 循環と無常

交響曲第8番「リヴェレーション2011」(室内オーケストラ版)は、一柳慧が東日本大震災を機に書いた、自然・文明・人間の関係を問いたず、默示的な作品です。この巨大な現実を目の前にして、芸術には何が可能か、という思いから作曲されました。「予兆」「無常」「祈り」「再生」というタイトルの付いた4つのセクションから成る全体は、循環と無常のイメージで覆われています。この曲は「西欧文明の普及によって葬り去られ、忘れられつつある古来からの特異性の上に育まれてきた日本固有の考え方や、生きるための知恵や経験を、これからどう受け継ぎ、再生させてゆけるか」を私たちに問いかけます。



ミュージック・シアター《トーキョー2011》成果発表の様子  
(2011年、東京ウィメンズプラザホール)

### ミュージック・シアター

本アカデミーではこれまで一柳慧の監修のもと、「トーキョー」(Vol.4)、「連歌」(Vol.5)の2作品を制作しました。全体を統率する指揮者のような存在を置かず、その場で立ち上がる関係性と対話を重視した手法は、東洋的であるとともに新しい社会の在り方を示唆しています。

1作目は、雅楽の基本的構成要素を現代に翻訳した「トーキョー」を、2作目は連歌のストラクチャーを用いて様々なつながりを問い、3.11への祈りをささげた「連歌」を、そして3作目となる今回は《ジョン・ケージ×鈴木大拙×一柳慧》をテーマに、一柳が「リヴェレーション2011」で投げかけた問いへ取り組みます。3月30日(土)にトライアウト(試演)を行い、その後さらにワークショップを重ねて、次回2013年12月に完成版を上演します。

## クロージング・コンサート／ミュージック・シアター・トライアウト

ジョン・ケージ、一柳慧、さらにその流れを汲む現在までの作品を、アンサンブル・モデルンのメンバーや若手音楽家が演奏します。また、特別編成の室内オーケストラによる一柳慧作曲、交響曲第8番「リヴェレーション2011」の演奏や、世界で活躍するシアター・ディレクター、ダニー・ユン、躍進目覚ましいヴィジュアルアーティスト、ジュンホ・チョン、キョンウォン・ムンと協働したミュージックシアターのトライアウト(試演)を予定しています。

■日時: 2013年3月30日(土) 14:00開演

■会場: 東京ウィメンズプラザホール

■入場料: 無料(要予約)

## アカデミーの聴講・コンサートの予約について

クロージング・コンサートおよび会期中のプログラムは、一部を除き一般公開されます。聴講をご希望の方は、トーキョーワンダーサイトのホームページをご参照いただき、氏名、電話番号、聴講を希望するプログラムの日時と人数を記載の上、件名を「アカデミー聴講申込み」として、E-mailまたはFAXでお申し込みください。(聴講料は当日、受付でお支払いください。)

E-mail: [performingart12@tokyo-ws.org](mailto:performingart12@tokyo-ws.org) Fax: 03-5766-3742

\* クロージング・コンサート(無料)

\* レクチャー・プログラム(無料)

\* それ以外の一般公開プログラム(聴講料: 1,000円/1日)

・プログラムの詳細はトーキョーワンダーサイトのウェブサイトをご覧ください。

・プログラム内容はやむを得ず変更される場合がございます。予めご了承ください。





## TEF 受賞記念プログラム

TWSは公募プログラムの中から、より優れた作品に再演の機会を提供してきました。Vol.7では、前回、最優秀賞に輝き、オリジナルの紙の楽器によるパフォーマンスが高い評価を得たペーパー・アンサンブル（オランダ）ほか4組がパフォーマンスを行います。受賞から一年、さらに進化（深化）した5作品にご期待ください。

■日程	2013年2月27日（水）～3月1日（金）
■会場	トーキョーワンダーサイト本郷
■申込方法	氏名、電話番号、ご希望の公演名と日時、チケット枚数をご記載のうえ、件名を「フェスティバル申込み」としてE-mailもしくはFaxでお申し込みください。 E-mail: performingart12@tokyo-ws.org Fax: 03-5766-3742

## 最優秀賞受賞 | ペーパー・アンサンブル「#9」

ペーパー・アンサンブルは、もの、イメージ、音（楽）の境界に挑んでいる…彼らが特定の作品の中でこれらの音を用い、正しい間合いで正確に演奏すると、私たちの音と音楽への認識に挑む音楽、パフォーマンスとなる——T. エルスヘースト（インディペンデントキュレーター、オランダ）



## [プロフィール]

美術作家で作曲家／音楽家のヨハン・ファン・トル（1983～）は日常のありふれた音、素材を取り出して研究し、そこから新しいメディアや楽器を創り出している。それらは空間、時間、形を構成する彼の作品の要素となっている。素材の魔力をキャッチし拡張することで、詩的で遊び心があり、途方もない形、サウンド・オブジェ、インスタレーションやパフォーマンスが生まれる。

- 公演日時：2013年2月27日（水）、28日（木）19:00開演（18:30開場）
- 入場料：2,000円



## 特別賞受賞 | 河合政之 with 浜崎亮太「ビデオ・フィードバック・ライブ・パフォーマンス」

このライブ・パフォーマンスでは、「パソコン」、「用意された画像」、そして「楽器」は一切使用しない。その映像とサウンドは、映画やコンピューターのデジタル映像で作ることは不可能であり、アナログなビデオでしか作り出せない。映画やデジタル映像と違った、ビデオの独自の美学をダイレクトに経験するライブである。（機材協賛：ベンキュージャパン株式会社）



## [プロフィール]

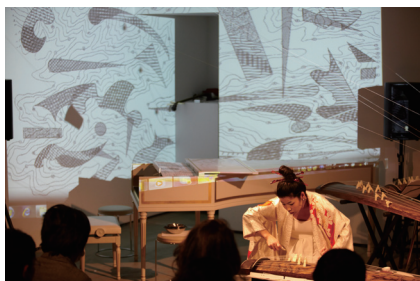
河合 政之：哲学的かつ先鋭的な映像作品を制作、世界30ヶ国以上で上映。NY、パリ、イスラエルなどに滞在。 展覧会のオーガナイザーとしても活動し、「Visual Philosophy」のコンセプトに基づいたさまざまなビデオアートプロジェクトを展開している。

浜崎 亮太：現代アートを批判的に乗り越える芸術の可能性と役割を思索し、ビデオアーティストとして活動する。

- 公演日時：2013年2月27日（水）20:00開演（19:40開場）
- 入場料：2,000円

**奨励賞 | Depuis1975—日原史絵+山本和智「実験邦楽—Experimental Japanese Traditional Music」**

伝統を重んじつつも柔軟かつ革新的な箏・三味線奏者の日原史絵、異才を放つ作品を発表する新進気鋭の作曲家、山本和智が2008年より続ける「邦楽器のポテンシャルを極限まで追求した現代音楽表現」をテーマにした、より実験性の高い公演。海外の作曲家2名、ヨーロッパ在住の日本人作曲家2名、同世代の才能溢れる作曲家たちの委嘱初演4曲を含むプログラムを予定。



## [プロフィール]

日原史絵：東京藝術大学卒業後、フランスを中心にヨーロッパ各地で演奏活動を展開。音楽の枠に収まらない独自のパフォーマンスがヨーロッパで高く評価されている。

山本和智：2009年度武満徹作曲賞、2010年第5回JFC作曲賞受賞など多くのコンクールで入賞、独自の異才を放つ作品が話題をさらっている。

- 公演日時：2013年2月28日(木) 20:00開演(19:40開場)
- 入場料：2,000円

**奨励賞 | 佐藤淳一「ライブ・エコロニクス!」**

ライブ・エコロニクスとはライブ・エレクトロニクスとエコロジーを掛け合わせて私が作った造語です。3.11で起きた原発の事故を発端として、日本の電力事情は大きく変化しました。こうした中でどの様にライブ・エレクトロニクス作品を演奏するか考えた際に行き着いたのが、太陽光発電を用いた蓄電池によるクリーンな電力による演奏=ライブ・エコロニクスという考えです。



## [プロフィール]

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。「ルチアーノ・ベリオの肖像」と題したりサイタル・シリーズと博士論文により、サクソフォン領域において日本初の博士号(Ph.D.)取得。現代音楽に積極的に取り組み、P.ブーレーズ「二重の影の対話」等を日本初演し、高い評価を受ける。また、執筆活動にも多く携わる。東邦音楽大学非常勤講師。

- 公演日時：2013年3月1日(金) 19:00開演(18:30開場)
- 入場料：2,000円

**奨励賞 | 吉濱翔「盲目」**

「盲目」は小さな音や遠い音など、普段聞き逃している音を聴くためのワークショップおよびサウンド・インスタレーション作品です。意識していない音は様々な姿、様々な場所で鳴っています。



## [プロフィール]

1985年沖縄生まれ。沖縄県立芸術大学卒業。那覇在住。音との関わりの中で発見する出来事をテーマとし制作発表を行う。主な活動に「VOCA展2012-新しい平面の展望-」(上野の森美術館、2012年)等。2012年、トーキョーワンダーサイトのレジデンス・プログラム(二国間交流事業)にて、バルセロナに滞在。

- 公演日時：2013年3月1日(金) 20:30開演(20:00開場)
- 入場料：1,500円



## TEF公募プログラム 企画募集

実験的な企画によるジャンルを超えた様々な表現をTWSのサポートのもと実施するトーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバル(TEF)公募プログラムでは、2013年秋開催のVol.8に参加する企画を募集しています。これまでも国内外から集まる多種多様な応募作品に対し、さまざまなバックグラウンドを持つ審査員が幅広い視点で選考にあたり、TEFならではの個性的な企画を実施してきました。Vol.8では、パフォーマンス部門に加え、サウンド・インсталレーション部門を新設。マルチメディアなサウンドフェスティバルとして生まれ変わります。

## 審査員

## 一柳 慧 (作曲家/ピアニスト)

科学技術の発達により、一見実験めいたものへのアクセスが容易になった。その分実験の疑似体験のようなものが蔓延してきている昨今、そこに何か欠落しているものがあるのではないかと。私にはその内容が身体性を欠いた方向へ向かいつつあるように感じられる。実験は身体性の復権があって新しい展望への道が拓ける。1960年を通過した者としては、このエクスペリメンタル・フェスティバルでは、実体を伴った実験の本質的な作品の出現を期待したい。

## 畠中 実 (NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員)

ジョン・ケージは「戦争中、大きな音が世界中をおおった。だから僕は小さな音で作曲した」と言いました。人のものの見方や考え方や感じ方は、時代や社会状況によって変わっていくのかもしれませんが、表現者は少なからず社会の変化を鋭敏に察知し、反応していくことで、社会に対してインスピレーションを投げ返す。それが東京から発信されるということが、よりラディカルなことであるような、そんな「実験」がありえないか。

## 沼野雄司 (音楽学者/桐朋学園大学准教授)

実験とは、すなわち摩擦はないかと考える。この世界に対するざらついた違和感をあえて振り起こし、さらに毛

羽立たせて、無理やり自分の作品として提出すること。もともと多くの人に望まれている行為ではないゆえ、それは時に滑稽で、時に悲劇的なものになるだろう。しかし、だからこそ意味がある。ただ滑らかなものならば、どこにでも転がっている。

## 中川賢一 (ピアニスト/指揮者)

アートの実験は既に様々行われており、そろそろ「実験」という枠を離れて、ただ本質に迫るものを追及する時期になっているのではないのでしょうか?それがたまたま実験的であったという事であればそれは素晴らしい「実験」作品であると思います。自然は既に我々の実験を超える巨大な脅威を我々に見せてまいりました。それとの対話を通して本質を是非体感したいと思います。

## 毛利嘉孝 (社会学者/東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科准教授)

21世紀の芸術家や音楽家は、18世紀から20世紀までの哲学者のような役割を果たすことになるだろう。私たちは3.11のような自然災害や政治の激動を映像と音を通じて理解する時代に生きている。芸術家とは、単に芸術作品を作る人ではないし、音楽家は単なる音楽作品を作る人ではない。映像と音に溢れている現代社会に介入し、自らの力で世界を理解し、その上で映像や音を用いてもうひとつの世界像を呈示すること——これが、今日アートや音楽に求められている最大の「実験」である。

## 杉田 敦 (美術評論家/女子美術大学教授)

アートや音楽は、単なる祝祭的なものではなく、思想や生活様式、政治や社会構造に対して、その改革や可能性を拡張する、真に実験的なものでもあるはず。そのことを忘れないようにできたらと思います。もちろんそこでは、審査すること自体も、ひとつの実験と言えるかもしれませんね。

## 家村佳代子 (トーキョーワンダーサイト事業課長)

3.11を境にして、私たちはそれまで、自然と命に関して現代社会の価値で覆われた地平の上に立っていたことに気が付いた。トーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバルでも、3.11以前の試みに対して、3.11以降に改めて意味を見出すことが、審査員としても難しかった。実験の地平が大きく変わったのだ。自然の大きな力を受けた我々は、それへの敬意と畏怖を抱きつつ、自然の大きな流れ、命のサイクルの中で、どのように日々を築いていくのか、このことを身をもって試みることがスタートしている。「実験音楽が探求の場としての音楽」とするジョン・ケージは、音楽にとどまらず、世界観をも変えようとした。今、私たちは、何をどの様に探求するのか?あるがまま、不二、瞬間、永遠の再生…。その生きる地平と姿勢へ、一見の新鮮さではなく、何を、どこを開いていく試みなのか?

## 応募について 締切: 2013年3月21日(木)

音楽、音による表現を用いた実験的なパフォーマンスやサウンド・インсталレーションの展示企画を募集します。いわゆるノイズやアヴァンギャルド、エクスペリメンタル・ミュージックのみならず、クラシック、ジャズ、伝統音楽、現代音楽、ワールド・ミュージック等、ジャンルは不問。他ジャンルとのコラボレーションを含む幅広い企画を対象とします。キュレーター、企画プロデューサーによる応募や、教育的なプログラムも歓迎します。

\*会場としてTWSの施設を無償で提供します。

\*経済的な支援としてチケット売上の還元(パフォーマンス部門)、制作支援金の支払い(サウンド・インсталレーション部門)を行います。

\*広報・宣伝および運営の一部をサポートします。

\*詳細はトーキョーワンダーサイトのウェブサイトをご覧ください。